

昭和12年8月1日（日）

晴れ。朝の間涼し。八時二十分頃、永末氏販る。九時過ぎ北野君、唐津より脚氣にて帰省の途、立寄る。氏を送りて簗島駅に至る。十一時六分上り列車を俟つ。然るに該当列車消滅したるを知らず。折悪く時計の持合わせなかりし為、十一時四十分迄待つ。0時より徒歩、博多駅に。住吉神社まで行き分袂（ぶんべい）す。近所皆大掃除す。自分の家の未だし、気にかかる。澄子の友達、本永さん午後0時半頃来宅。雷雲の発生を見るも、風強き為、阻害され雷鳴を聞かず。本永さん四時三十分販る。石丸及び北藤記者招待会は、午後六時開会の処、定刻不来、次第に困惑の情を漲る。七時に至るも猶見えず、愈々（いよいよ）焦躁の感あり。久子日之出町まで行き監視し、余八時まで待つ決心を定む。久子慌ただしく馳せ来たり。両氏タクシーにて来れりと通報す。道子迎えに出て案内して来る。ビール、キリン一打4, 30円、余五円手交す。石丸氏余り多くを飲まず。北藤氏好飲家らし、九本平らぐ。料理多く調進到底食盡せず。七時三十分天津出征、香月中将の国民に対する挨拶あり。九時半販る。十時よりジュネーブより国際放送あり。我国よりも交換的放送を聞き、十一時寢床。

昭和12年8月2日（月）

胃内に猶、停滞物浅留あり、悉く吐き出す。朝食を廃す。道子も同様なり。其の他は平常と異なるなし。大掃除は七日検査、夫れまでに済ませば可なり。今日皆ゴロゴロし居る。此の夜町内より出征兵士明朝出発に付き、三時半までに集合、簗島停留所にて決別のことに布令あり。

昭和12年8月3日（火）

朝一時二十分頃、隣家起きたる気配す。畢竟兵士を送る為、早起せしものと思料し、余も次いで起床。間もなく出発せし模様にて戸の開く音す。玄関の戸のすべりらし。余も愛国の至誠に於いて、人後にあるべきに非ず。乃ち起きて服を改む。此時久子に起きて貰ふて衣服を取出さしむ。戸を排して大通りに出づ。市街商売、猶起きて居る処あり。表街路に腰掛けを持出し、涼を容れ居る者あり。簗島停留所はバスか電車か不明、余はバス停留所に至りしも、誰一人居らず眠る。三時半更に起床せしも、少し遅れて間に合わぬ恐れありて中止す。其の儘、起き出で便所行き。此の朝快晴、大掃除初む。余二階の畳を剥ぎ、屋根上に立掛け乾燥せしむ。二枚は其の場所なく、本箱の下の方は乾かさざりし。階下は玄関二畳を除き悉く乾燥せしむ。十時半終了、初めより二時間余にて片付く。縁の下をも掃除す。午後二時、逓信局より引継ぎ八日に延期方通告あり。中津木下君に通知せり。木下君昨日「家屋受継ぎ相談保留、事務受継ぎ差支えなし」と電報あり。蓋し未亡人立退きを肯（がえん）ぜざるものと思料す。此日朝久子へ電報、直方より「ヨシコ ベウキ ヒサコ スグコイ」。理由の如何に関わらず、命令的な電文に対し呆気にとらる。掃除終了後、久子ビールを持来たり一本飲む。大コップ久子自分にと配給す。余程好きと認む。午後0時10分出発、一時五分発にて直方行きの筈。余の回数乗車券を求めしめ二十式円遣わす。愛子より手紙。転宅に付き挨拶廻りの為、着物を貸せと、道子宛依頼あり。支度中延期の通報に接し、不取敢、道子は愛子に、余は木下君宛て手紙出す。午後より

曇天。夜に至り久子販るかと待つ。電報来る、曰く「シヤビン ハジツク エキニコイ」。意味不明なるに付き、色々協議せり。結局余の頼みし回数券は、今夜泊まることになりし為、汽車便にて送る。八時受取に駅に來いとの意味と認めたるも、明日出発せざることになりし為、其の儘、家に居る。九時過ぎ皆寝む。余十時寢床。

昭和12年8月4日（水）

快晴。東風、可なり強し。二階は風の為割合涼し、階下は蒸し暑し。大阪そごうに色々注文せり。博多織工場より直線に烟突の煙り二階に注がれ、煤煙、蓐（しき）りに侵入す。昨夜八時四十分、日米水上競技、福岡プールより其の実況の放送あり。午後六時大濠プール（水温26，5）。

男子200自由形、1. メディカ2分15秒4

2. 杉浦 3. 佐々木

男子100背泳、1. キーファ1分7秒2

2. 吉田 3. 谷口

女子100自由形、1. ロールズ1分11秒8

2. 杉村 3. 古田

男子100平泳ぎ、1. 葉室鉄夫1分14秒4

2. ヒギンズ 3. 葉室弟

女子100背泳、1. ロールズ1分25秒8

2. 伊藤 3. 小田

男子200背泳、1. キーファ2分30秒4

2. 吉田 3. 谷口

男子500自由形、1. メディカ6分24秒8

2. 杉浦 3. 天野

男子200平泳ぎ、1. 葉室鉄夫2分44秒8

2. ヒギンズ 3. 葉室弟

今朝回数券の配達を受く。通用期限九月二日迄とありて、僅かに一ヶ月間とあり居るを発見す。午後三時博多駅に行く途中、列車の東行を歓迎する国防婦人、愛国婦人、青年団体多数詰め居れり。列車は貨物、車内に飛行隊の兵士と多数の飛行機の部分品を満載しあり。かかる間にも出征軍人が町内旗及び会旗を先頭に、駅前広場は一杯の人集り、余は此等飛行隊列車を萬歳を以て目送し（松屋楽隊の賑やかな吹奏楽と、小学生多数小国旗をかざしてホーム内にて送る）回数券の通用期間を質す。三ヶ月正当なること判明、訂正し貰ふ。料金二十一円六十銭、一回135銭にして42銭の利益に過ぎず。山崎清五郎氏を訪ふ。住吉新屋の家を普請し居る為め、毎日監督に出張し居ると妻女の話しに、其の家に至る。家は頗る古く、殆ど新築同様に手直しを要すと謂わる。土蔵一棟を新設せらる。600円を要し、他の普請に400円、計千円の見込みなりと。折節雷鳴聞こえ、辞してバスに乗り販る。猶山崎氏に盆には一燈園に何程か献金したしとあって、曩に桑原氏より箒50本の注文ありて、それを送付（一本五銭、送料1, 50円）せり。其の為に、会員各自50銭負担を建議さる。余乃ち50銭を同氏に托し販る。夕飯五時半、雷鳴猛烈。澄子泣顔を呈し飯を中止す。後より新聞報、合屋病院に落雷の外、市内数カ所に落つと。人畜には損害なき如し。

昭和12年8月5日（木）

快晴、風強し。久子昼前来る。寿し三個土産に持来る。木下氏より手紙あり。麻生局長も来会し不純の分子が含まれ居るを見、保留したりとあり。その点は覚悟し居れり。

尚、成るべく早く来津を希望し越せり。北野純一氏及び親父より同時に葉書あり。返信差出す。

昭和12年8月6日（金）

晴れ。澄子に理髪し貰ふ。水浴すること数度、可なり暑し。明日の準備せり。

昭和12年8月7日（土）

朝四時起床。前日は三時半に起床せしに比し、多少遅れたる観あり。五時二十分前、素麺の残りを食し、五時十分出発。二十五分南新町に至り電車を俟つ。三十分乗車、四十五分発車。小倉より各駅間応召兵士見送りの為、幾分かづつ遅れ、二十分程多費九時到着。一旦巖の家に落付き、水浴して出局。局長に挨拶し、木下君に面会す。駅前局長心得磯田氏、及び麻生局長麻生氏等の策謀に基づく千円と切り出す。到底話しにならぬから、其の問題を保留したり。永江氏を罷めることは考え物なりと云ふにあり。一旦帰り、二時鶴居局長臨局せし由にて、再び出局。一切を同局長と木下君とに一任す。両氏乃ち駅前に至り磯田氏に会ふ。余は飯宅と同時に、巖に佐世保に電報を發送方依頼す。昨朝、余佐世保行1, 75、午前五時二十七分発、九時半到着。家工事竣工未だし。野村生命事務所はリノリームを敷き、小綺麗に出来上がる。三階は座敷照の病室、昌江に松原氏の協力を依頼す。同氏明朝戸畑に至るを以て、其の序でに中津に行くべしと云ふ。然るに同氏等に来られては、事却って面倒になる恐れありと見て、此日電報せしものなり。此の夜木下君立寄り、結果通知し呉れる。乃ち先方600円に折れ、鶴居300円と切出し、遂に進捗を見ず。不取敢、損料器

具借料を含めて25円とし、電気料を先方持ちとすることに決定す。未亡人を其の儘、採用し置くことに同意す。当分此の儘、持越すことにしたるもの。余賛意を表す。

昭和12年8月8日（日）

晴れ。九時局に至りしも誰も居らず。十時近くまで待つ。中村局長は駅前局に待つ。下園氏十時到着、事情を話し一緒に駅前に至る。辞令、三級俸手当を頂く。此日の立会者麻生氏、磯田氏、下園書記分昼食、及び飲食分は局員全部分馳走せり。下園書記、麻生氏、中島主事宅に至り、此の夜一泊せし由。余は仏壇に祭りある永江氏霊に経文を奏す。母堂に挨拶して五時頃飯宅、水浴す。此の朝降雨、出局時霽れる。遂に終日晴れ曇り半ばす。

昭和12年8月9日（月）

相談所及び豊後町に挨拶に行く。管家原氏、磯村氏に面接、先生未だ見えず。其の儘出局すれば下園書記既にあり。午前中にて引継ぎを了し、同氏眼洗ひに相談所を利用、一時余も相談所に至り、島原先生に面会。先生三時に訪ぬるを約す。飯るさ耶馬溪倶楽部にて、料理定食にて麻生氏と三名にて会食。下園氏一時半発、森に向けバスにて出発、料1, 20。二時間を要する由。三時島原先生臨局、同三十分一緒に飯る。筑紫亭に誘わる。芸妓三名、ビール拾数本、飲まぬを無理に注文する、詢（まこと）に不経済。八時タクシーにて送り込まれる。先生、巖に面会して其の儘バスにて飯らる。

昭和12年8月10日（火）

暑気強し。挨拶状200枚を得1, 20、及び職印1, 30支

払ふ。切手類500円を在庫、40円を窓口に備付けたり。尚、永江氏へ二円、是永及び守谷両氏に各三銭、昇給辞令す。日之出新聞記者大石某、昨日来局せしが本日不来。

昭和12年8月11日（水）

中津局に出局に際し、朝髯剃り、理髪屋に20銭支払ふ。九時局長に面会。次いで木下君及び中島、松吉其の他知己各位に挨拶す。木下君より種々注意あり。挨拶廻りの氏名表作成呉ることとなる。木内工員にも挨拶す。名刺注文す。九時半帰局。午後より町内日之出町一の組を戸別に挨拶。午後三時帰宅。鶴居長及び木下君には金五円を謝礼することとしたり。夜未発送の分に挨拶状を發す。十時過ぎ寢床。

昭和12年8月12日（木）

朝本局に行き、木下君より名刺40受取り、猶謝儀は現金は不可と云ふから、松永用品店より商品券を求むこととし、豆自動車をも木下君に頼みて帰局。十時過ぎ豆自動車来る。乃ち途中松永用品店に寄り、五円二枚の商品券を得て、栄町及び鶴居に行く。局長不在、商品券差措き帰る。不用消耗品の整理始む。午後三時帰る。雷鳴頻り、雨少時、大急ぎにて帰宅。商品券木下君へは小包にて発送の見込み。夜涼風、珍らしく熱さを感じず。子守り悦子を寝かす。

昭和12年8月13日（金）

広報発令。丹治君等、高等官組多数発表。唐津江崎君保険課長となる。書類整理。不用品払い申請書作成、

未完。午後三時、奥畑、竹折両氏来局。豆自動車料2,00支払ふ。夜に入るも暑し、風少なし。中尾氏より手紙あり、婦人修養講習参加通知ありし由。

昭和12年8月14日（土）

九時出勤、秋元鶴居局長臨局。余より送りし謝礼返付、余押返す。好意的助言あり。現金検査。午後一時二十七分発列車に乗る。十分遅れ、香椎附近より雷鳴。博多駅着の頃は篠突く降雨、ホーム外一步も出づる能わず。タクシーを傭ふて出掛ける者夥多（かた）、九軌デパートより番傘拾余本を持来、電車通りまで送る気が利いた深切に感心す。構内待合室にて待つこと少時、五時十分霽れ南新町にて再びバスを待つ。五時四十分到着。澄子痔悪く、久子胃腸を害し、枕を並べて臥床。お盆にて仏壇装飾し提灯を点したり。夜、秀夫夫妻子供来る。三十分余にして眠る。

昭和12年8月15日（日）

手紙書きに忙わし。デパート休業、外出せず。猿股取換え、夫々洗濯し貰ふ。夜墓地に至る。提灯を墓を廻りて林吊（りんちょう）し美観を極む。十時頃此等多数の提灯を焼却すと惜しい様な気持す。蓋し二度と不吉を示さざらんことを期するにありと。中津市は各家庭の仏壇に、親戚知友よりの提灯を吊して豪華を誇り、敢えて焼却せず。十時寢床。此日ソゴウより蚊帳、ハイキング服、靴等、注文品一切到着。

昭和12年8月16日（月）

七時十分、前夜の残飯と鰯の煮付けの残りを食して、同

四十分出発す。南新町まで徒歩十余分剩り、少時俟つ。八時十分発車、十一時三十分到着。直に執務す。暑気可なり強し。盆前とて為替取扱時間、午後三時まで延伸、十八日まで。五時過ぎ飯宅。十時まで新聞見て、寢床。多少曇り。

昭和12年8月17日（火）

此日も多少曇り、風少なく蒸暑きこと甚だし。速達郵便、昨日より実施。数通差出しを見る。此日切手類請求に於いて、種々面倒なこと電話し来る。凡て永江氏を代理せしむ。三時より不用書類処分に対し整理す。五時半までかかる。氷水馳走さる。山移局長臨局、窓口にて挨拶す。巖に挨拶状を書いて貰ふ。大分県北部局長会全部を網羅することにせり。夜風なく暑し。

昭和12年8月18日（水）

曇り勝ちの天候、前日よりは凌ぎ良し。往復文書整理、午後三時まで為替、本日にて最終。明日より再び正午まで復旧す。増田翠子より手紙着。本日百円切手、資金に増額す。総額六百四十円となる。此日盆前、出発不可能の旨、中尾氏に葉書通告す。子守りに何も出来ず、是れも天の配剤と諦む。

昭和12年8月19日（木）

朝七時、三百間に海水浴。巖と和博と共に墓地内を、塵芥焼却場傍らの田畦を一直線に十数分間水浴。七時半帰宅、朝飯。八時五十分出発、九時十分出局。使用済み帳簿申請書発送す。二時四十分、特高巡查臨局。朝鮮及び支那人中、貯金払戻し異常の有無を調査の為なり。

昭和12年8月20日（金）

朝蚊遣香なき為、便所行閉口せり。此朝も例によりて巖と和博と海水浴に行き、七時半帰宅す。八時四十分出勤。多少整理し、午後二時十分、為替一類及び現金吻合を確かめ販る。

昭和12年8月21日（土）

晴れ、九時出局。午後一時、全部の現金受払い及び証拠書類の検査を了し、一時十分出発。少時待合います。午後四時半博多駅着、電車及びバスにて五時自宅に帰る。夜、鰻飯。十時過ぎ寢床。

昭和12年8月22日（日）

九時まで新聞を見、次いで手紙書き、午後四時を過ぐ。夜ボタ餅、五時より久子と市内に出づ。秀夫にボタ餅を配る、活動見に行きし由にて誰も在宅せずと云ふ。岩田屋に化物展覧会を見る。皿屋敷、お菊の幽霊、牡丹燈籠を人形にて配し、墓地塔婆（とうば）等をあしらへ、更に妖怪に対する各種各様の伝説を蒐め、解説を附しあり。松屋に至りインキ黒赤二瓶を求め、玉屋に至る途中、久子の要求によりアイスクリーム各五錢を奮発させられ、玉屋にてはスリッパ1,00円、便箋20を求め、バス三区乗り帰宅。十時寢床。此日の手紙拾五通発送せり。

昭和12年8月23日（月）

四時起床。七時前朝食、同三十分出発。ワイシャツ袖の破れに対し、澄子に裏返しして貰ふ。夫れを一着に及びて、ボタ餅九つ土産に持ち汽車に乗込む。十一時過ぎ中

津駅着、ボタ餅を永江氏に渡す。大阪中央より交換払い
通知書来たり。之に対する措置を尋ぬ。乃ち関係規定を
示し指導す。午後三時降雨、雨歇むを俟って帰宅。一昨
土曜日、大貞公園に花火会あり。六時頃爆発負傷者を出
し、全煙花を焼き蓋し遂に大会を中止すと。身元引受人
証書提出方、電報督促あり。既に本朝書面回答せし故、
返事せず。

昭和12年8月24日（火）

五時起床。予ての蚊遣香を袋戸棚より取出し便所に持込
む。線香に点火せざる裡に、既に一匹を斃せり。八時半
出発。涼風吹き秋の匂いを呈せり。日中は暑熱甚だし。
駅長より局の秤量と本局の分と、1グラムの差あるを指摘
し問題とす。余乃ち公文にて本局長に局員の派遣を請ひ、
齊正を求む。間もなく監視員来たり、吻合を認め帰る。
北野五一郎君、唐津の北野君を連れ局に来る。色々咄し
て去る。北野君二十九日唐津に販り、服裕わすと云ふ。
余の家に一泊を勧む。午後三時帰宅途中相談所に寄る。
先生未だ居らる、四時過ぎまで話し一緒に販る。巖販宅
六時。夕食を済ませしときは、七時を過ぐ。今日は暑熱
強く流汗淋漓なり。

昭和12年8月25日（水）

朝六時半散策、和博を連れる。七時販宅、朝食。八時
半出発、九時出勤。今日は老人出頭遅延、余の方早く
出発。尤も巖は事故集金票に対し本日より集金の段取り
なるらし。明日特別監察に対する予備監察する旨、鶴居
より電話あり。四時帰宅、巖七時販宅。塩川、野辺賢助
妻病死の旨通知あり。巖電弔せし由、二十六日余電弔す

る手筈。午後三時頃永末琢美氏、羅漢寺まで自転車旅行せし飯途なる由にて、立寄り挨拶して去る。日中暑し。

昭和12年8月26日（木）

今朝早く出勤。昨日の鶴居局よりの電話に依れば、八時までに行くとありしも、まさかと思い八時二十分頃行く。既に臨局しあり。鉄輪局長は庶務を、四日市局田口通信手は現業の全般を、杳掛局長は為替貯金保険年金事務を、鶴居局長は参考立会者として、正午近くまで諸般の事務を見る。十一時五十五分発三郷に向かう。余は正午中津局に至り、局長室に局長を訪ふ。昼食中、中島、松吉、木下各主事あり。局長の眼病を見舞ふて帰る。午後二時、松本好子、由井静子来、少時話し懷旧談を交えて飯る。木下君駅に見送りに来たりし序でに立寄るも、窓口にて辞し去る。余三時に飯宅。木下君来宅す。座敷に請じて、鷹尾家主より招ばれてこれまでの成行を話し、先方の意見を聞きたる内容に付いて意見の交換を行ふ。四時過ぎ同氏飯宅。市街地を一巡して両児と共に散策す。

昭和12年8月27日（金）

此日経費来る。先ず給料に於いて日割り計算方に違算あり、木下君に尋す。月給者は発令の翌日より、日給者は発令当日よりとなり居ること、後より判明。屋賃も日割りとして支払う。猶十七円余残る内、拾円は巖に食料として交付す。残七円余旅費に足らず。切手経費利子三十余円を有す。之れの方は積立てるか如何か考慮さる。巖も受取らぬと云ふを押して遣る。愛子も同様なりし。

昭和12年8月28日（土）

愈々此日は帰宅のこととなる。耶馬溪洞門行きは通信手に代理せしむ。為替貯金締め次第済み、漸く出発。十五分前に現金丈け吻合提出す。一時二十分発、十分遅れ。一時間前中尾氏よりの書面到着、車中にて閲覧す。兵士見送り各駅共盛んなり。五時帰宅。水浴、十時寢床。留守中、澄久一泊の予定にて唐津行、木村屋泊まり。次いで道子と澄子と交代、今度二泊し橋本氏に電話し、同氏宿に来て深切に世話し土産まで送り越さると。然るに道子急性胃腸病にて、医師を招き注射して貰ひしやにて、寝て居る。澄子、猶全癒に至らず働き居る。夜シチューなどして馳走し呉る。

昭和12年8月29日（日）

昨夜、雷鳴風雨烈し。朝まで雨上がり。手紙の返事書く。午後三時小野純一氏来宅。食事後久子案内、岩田屋に行く。ノータイ、襯衣（はだぎ）300持たせてやる。六時半澄子も連れて合津に行くこととす。但し澄子は諾否を保有す。中尾氏には概略通知す。久子等、岩田屋及び松屋に行き西公園を見て販ると。襯衣2, 80を赤札2, 30にて岩田屋より求め来る。小野氏風呂に行き十時寢床。

昭和12年8月30日（月）

四時起床、戸外にて体操をすましたり。六時頃起きたる後より蚊帳を畳む。蒲団を片付く。六時半飯を済まし、七時半出発。此朝久子出征兵士を送るべく、六時二十分、住吉神社に行く。停車場は、国防婦人等にて一杯の人出なり。松屋音楽隊の出演あり。定刻中津着。午後四時、帰宅。松田威治氏、吾等の裏に移転し来られしが、日曜

挨拶に見えられし由。曩に市内目貫の箇所に住られ、書生一名を傭ひ居られし由。

昭和12年8月31日（火）

八時四十分頃着、朝余程涼し。午後三時過ぎ帰途に着き、松田弁護士を訪ふて三十分程話す。家中猶荷物で一杯、整理未だし。書生居らず。奥様と兩人きりにて始末し居られ淋しそうなり。食後子供を連れ散歩す。松田様風呂に行き畦道伝いに来らるるに逢ふ。十時を過ぎ寢床。